

【おいしいレジユメの作り方】

何かを調べてまとめて人前で発表するというのは、就活でも、就職してからも重要。ゼミでの発表はちょうどよい練習になります。

1) 形式を守ることはとても大切!

- ・ 何のゼミで、いつ発表するものかをきちんと書くこと (右上みたいな)
- ・ ページが複数になる場合は、ページ番号をきちんとつけること
- ・ **左上をホチキスで止めること** (クリップだとはずれやすいんです)
- ・ 手書きレジユメはダメ (どうしても無理なら仕方ないけど、ワードは絶対使えるように! *1)

2) ちょうどよい分量で見た目もいいと、「わかってる!」感が出てくる

- ・ 30分程度の発表なら、A4で2枚ぐらいがちょうど。1枚だけでは時間が余る (レジユメは簡単にして、あとは話術で勝負するというのができるならOKだけど、最初はやはり詳しくまとめる練習をしましょう。あと、書いてないことたくさん話しても、聞くほうの頭にはなかなか入らない)
- ・ 10ページ以上の力作を仕上げる人もたまにいるけど、あまり長いとそもそも時間内に全部読めない、逆にポイントがわかってないのではないかと思われがち、なので、メリハリをつけてびしっとまとめる練習をする。重要でないと思ったところは思い切って飛ばしてよい。
- ・ だいたい、本文のまとめ、他の文献で調べたことや自分なりの意見、が半分ずつぐらいがちょうどです。本文をだらだら紹介して2行ぐらい感想を述べるとかではつまらない。

<p><u>見た目を工夫すると同じ内容でも頭に入りやすい?</u></p> <p>重要なところは こんなふうに見出しをつけたり、字を大きくしたり、フォントを変えてみたり、図を描いてみたり、「見た目のわかりやすさ」も工夫する。</p>

3) 内容について

- ・ このプリントみたいな**箇条書き**で、重要そうなところをまとめる。「これは!」と思ったところはちゃんとした文章で書いてみるのもよいです。
- ・ 「この問題は3点あって、・・・、・・・、・・・」と**番号をつける**とまとめやすい。似たようなものに「メリットは・・・、デメリットは・・・」など。「流れ」や「対立軸」を作るようにするとよいです。
- ・ 法律学のゼミなので、関連する条文は必ず調べてきてください。レジユメに書くかどうかは自由だけど、内容は説明できるように。条文はネットでコピーすればよし。

*1 注がついていたりすると「なかなかやるな」と思われます。ワードの場合、「挿入 参照 脚注」で。

- ・ 参考文献 (紙の本) を 1 冊以上、紹介すること (絶対!) *2。図書館に行って何か関連しそうなものを見てメモしておく。著者の意見と違う見解だと、より楽しくなる。
- ・ ネットの記事は使うなどは言わないけど、きちんと URL を書くこと。こっそり使っても教師には確実にばれます*3。wikipedia 使うんだったら何かちゃんとした教科書を引っ張って。

4) 引用・紹介の仕方

- ・ 「この点について、山田太郎は「AとBの2つの問題がある」と指摘 (山田 2006: 29 頁)」みたいな書き方がわかりやすくていいです。他人の意見を紹介する場合はめんどくさくてもひとつひとつこんなふうを書くこと。ちゃんと書かないのは盗作になっちゃいます。
- ・ 参考文献は最後にまとめて、こんなふうに書きます。

・ 鈴木一郎「民事と刑事の違い」『法律時報』2005 年 12 月号	論文の場合
・ 山田太郎『よくわかる法律学』集英社、2006 年	著書の場合
・ ロン・スミス (鈴木正夫訳)『アメリカ訴訟の現状』、講談社、2005 年	翻訳の場合
・ 「法律と政治」(ブログ「ある弁護士のつぶやき」2010 年 10 月 10 日記事) (http://arubengosiblog.com/4564213.html : 最終閲覧 2010 年 11 月 13 日)	ネットの場合

5) 「自分の意見」って何? : それは「他の人の意見」を比較した上でのもの

- ・ 「自分の意見」は、「面白かった」とかただの感想ではだめ。著者の意見、それに反対する他の意見の2つを考え、比較した結果、自分はこう思う、というのが理想的です。他の意見も読んで考える、というのが大切。勉強してないけど自分なりに考えた! というのでは面白いのはあまりないです。たいていのことは誰かすでに言ってる。
- ・ どんな意見がいいかということ、たとえば、著者はこんなふうに言ってるけど、Aも「・・・」と書いているように・・・だから、不適切ではないか、と批判してみたり、著者はこの問題をこれこれの点だけで論じているけれども、・・・のような問題もあるのでそれも考えるべき、というふうに、他に考えるべき問題を指摘する、といったことがよいです。よってたかって文句つけるのがゼミというものなのだ。
- ・ もちろん、著者の言うことはすごい! と褒めるのもOK。その場合、「なぜすごいか」という理由を考えてみる。たとえば参考文献を紹介して、こいつはこんなダメなのに、この著者はここがちゃんとわかってる、えらい! というふうに比較があるとよい。
- ・ 最後に数行で「まとめ」を作るとわかりやすいです。

*2 最近ネットでは読める学術論文も多いです。そういうのは紙の本と同じ扱いにします。

サイニー (<http://ci.nii.ac.jp/>) や、グーグルスカラー (<http://scholar.google.co.jp/>) で調べてください。

*3 大学の先生というものは、自分の専門については、本もネットも、日本語で書かれているものぐらいは全部読んでると思っただほうがいいです。少なくとも「ああ、これはあれから取ってきたな」というのは一発でわかります。外国語のをこっそり使われたらすぐにはわからないけど、それができるんだったらこっそりではなくまじめに紹介するほうがいいと思う。